

令和3年9月16日

（あて先）熊本市長

団体名 NPO 法人せいしとらんし熊本
代表者 職名 理事長 中村 和可子



熊本市市民公益活動支援助成金実績報告書

令和3年4月1日付け指令（地活）第1－1号により、熊本市市民公益活動支援助成金の交付決定を受けました事業の実績について、熊本市市民公益活動支援基金実施要綱第21条の規定により、関係書類を添えて下記のとおり報告します。

記

1 助成事業名

くまもと・わくわく基金「公益社団法人熊本法人会ファンド」助成事業
幼児期から始めよう、いのちとからだの学び（性被害予防啓発事業）

2 助成事業の実施期間

令和3年4月1日 ～ 令和3年9月15日

3 助成事業の内容

幼保職員ための幼児期性教育オンライン講座（全2回）を収録し、希望する全ての職員にYouTube 限定配信を行った。

4 事業の成果

動画再生回数は計168回、約220名が視聴した。アンケート回答数は48件である。

5 助成事業の実施状況

- (1) 事業収支決算書（様式第16号）
- (2) 事業の経過又は成果を証する書類等
- (3) その他参考となる資料

事業収支決算書

◆収入決算

項 目	金 額	内 訳
会費	0	
当該事業による収益	0	
当該事業に対する寄附・協賛金	0	
その他の自己資金	0	
当該事業に対する助成金額	86,112	
その他の補助金、助成金等【D】	0	
合 計	86,112	

◆支出決算(事業別)

事業名 支出費目	事業1	事業2	事業3	合計
	幼保職員ための 幼児期性教育オ ンライン講座			
人件費	0			0
報償費	30,000			30,000
旅費	0			0
人件費等合計【A】	30,000			30,000
役務費	19,862			19,862
使用料・賃借料	0			0
事務・消耗品費	16,250			16,250
委託費	20,000			20,000
合計	86,112			86,112

助成申請上限額(助成種別:スタートアップ助成)

$$[\text{事業費 } 86,112 - \text{控除額【E】 } 0] \times \quad = 86,112$$

※控除額…超過人件費(人件費等の合計が事業費の1/2を超えた部分)とその他助成金の合計

人件費等の合計【A】	30,000	➤	超過人件費【C】※	0
事業費の1/2【B】	43,056		その他助成金【D】	0
超過人件費【A-B】…【C】	-13,056		控除額【E】	0

※マイナスの場合は0円

◆支出内訳（事業別）

事業1〔幼保職員のための幼児期性教育オンライン講座〕

人件費	0
報償費	出演者謝金@10,000 円×3名
旅費	0
役務費	郵便料@94×197 通、@84×16 通
使用料・賃借料	0
事務・消耗品費	クリップ式LEDライト（動画撮影用）1,979 円、インクカートリッジ@5,445 円×2 本、封筒@858 円×2 袋、テープのり 1,089 円、コピー用紙 576 円
委託費	動画編集費 20,000 円（2 講座分）

別紙（１）

事業報告書

実施年度	令和３年度
事業名	くまもと・わくわく基金「公益社団法人熊本法人会ファンド」助成事業 幼児期から始めよう、いのちとからだの学び（性被害予防啓発事業）
事業期間	令和３年４月１日　～　令和３年９月１５日
事業の目的	子どもの性被害が後を絶たない今、子どもを性被害から守るための手立てとして注目されている「幼児期からの性教育」。この事業では、子どもたちが性被害を回避できるようになるための「幼児期に必要な性の学び」を保育者・教育者に対して行い、各施設で性被害予防の啓発を子どもと保護者に広げ、身近な子どもの性被害をなくすことを目的とする。
具体的な 事業内容	事業：幼保職員ための幼児期性教育オンライン講座（収録ののち、限定公開） <テーマ１>「第１部・幼児期から始める性教育～性被害と性的トラブル予防ために～」 <テーマ２>「第２部・発達段階に応じた性教育～就学前までに身につける知識とは～」 日時：【録画】令和３年８月７日（土）９時～１２時 【動画公開期間】令和３年８月１０日（火）～８月３１日（火） 場所：オンライン（YouTube 限定配信） 対象者：熊本市内認可保育園、幼稚園、子ども園１９７園の希望する全ての職員。 広報：上記１９７園へ告知チラシを郵送。その他、あいぽーとによる働きかけとして市役所担当課から私立幼保園へのポスティング、あいぽーと内掲示およびチラシ設置。視聴を希望する場合、チラシに添付したQRコードまたは当法人HPよりGoogle フォームへ申し込みをしていただき、ご記入いただいたメールアドレスに動画URLを送信するという形をとった。 まず、２つのテーマについてのオンライン講座の先行収録を８月７日（土）に行った。講師は、当法人理事長の中村和可子、ゲストスピーカーは現役の保育園園長１名、保育士１名、保護者１名が出演し、それぞれの立場からの意見や考えを発言してもらった。さらに、動画視聴希望者の質問にも動画内で回答した。それぞれのテーマごとに各６０分ずつの動画に編集し、８月１０日（火）から３１日（火）までの間公開した。 視聴者数：２２０名 動画再生回数：第１部１００回、第２部６８回（園内研修としての一斉視聴を含む） 視聴後アンケート回収数：４８
実施場所	オンライン会議室 zoom 及びインターネット上
協力団体	なし

事業の効果 ・公益性	今回、事前アンケートで「幼少期の集団生活のなかでまれに起こる性的な言動」に頭を抱えている方がとても多く、そのことに対する現場の対応がまちまちであることがわかった。幼児期の性的な言動のほとんどは、この時期の子どもにとってはごく当たり前に起こる事象である。そこで講座内では「①これらの言動は正常な成長発達のなかの一つであること、②大人はどのような声かけをすることが良いか、③その言動から全体への指導へつなげていくために先生ができること」などを中心に、現職の園長、保育士、保護者の3名のゲストスピーカーと共に当法人理事長が話をすすめることにした。 事後アンケートでは「子どもの出来事を受け止め、受け入れるように意識していきたいと思う。」「大人の対応ひとつで、その子の捉え方がコンプレックスにも、素敵な事だともこれほど変わるのかと。私達自身の考え方を改めなければと思った。」「性器を触っている子どもに対して「触らないよ」「汚いよ」という言葉かけが禁物だということがわかった。」「ちんちん」などの言葉について反応しがちだが、スルーするという対応が適切だと知り、これから意識したいと思う。」等、子どもたちの性的な言動にどう向き合っていけばよいかを理解していただけたことは、大変喜ばしいことである。保育、教育に携わる先生方が、幼少期からの性教育の重要性を知るきっかけとなったことで、子どもたちへの普段の接し方も「より自他の身体を大切に思えるように」という心がけのなかで行うことができるだろう。 また、今回受講された先生方が個々の子どもへの対応を保護者と共有することで、家庭で「性に関する会話」をするきっかけになるだろう。子どもたちが周りの大人から折りにふれて「からだのはなし」を聞くことで、ひいては地域の性防犯への意識の高まりへと繋がっていくものであると考えている。今回の事業実践により、私たち大人が幼い頃に学べなかった「性教育＝生教育」を園や学校、家庭で当たり前のように学び、語れる社会の実現に一步近づくことができたと感じている。
次年度以降の事業展望	事業アンケートにより、これまで市内の保育教育の現場で働く先生方が、子どもの性的言動に対する困りごとや悩みを相談できずにいたことが明らかとなった。性と生は切り離せないものであり、子どもの成長過程において必ずどの子にも訪れる「性的関心の芽生え」について、子どもと関わる全ての大人が深く理解し、受け止め、対応できるよう準備しておくことが必要である。そのため、当法人が普段主に行っている「親子向け性教育」に加え、子どもと関わる職に就く大人に対して今回のような講座、講演会を積極的に行っていきたいと考えている。また熊本市のNPO団体として、現場や家庭での対応に困った時に気軽に相談できる身近な第三者機関としての役割を果たしていきたい。
事業への想い (当事業によってどのような熊本市にしていきたいか)	「性教育」と聞くと大人は「精子、卵子、性行為」というワードが思い浮かんでしまう。そして保護者も先生も子どもへの性教育には消極的で、ネガティブなイメージである。しかし今回、私たちが最も伝えなかった性教育とはそのもっと前段階、つまり「<u>どの子ども大切に育てられる権利があり、一人ひとりの気持ち尊重され、心身の安全が守られるための教育</u>」ということであった。この学びは幼児期にも必要であると常々感じており、先生方にも知っておいてほしいという思いのもとでこの事業を企画し、講座の立案、動画配信を行った。視聴後アンケートでは、多くの先生方がそのことに気付いてくださったことがわかり、私たちもとてもやりがいを感じている。 本事業に参加した先生方が、保護者（市民）の方々に「段階を追って学ぶ新しい性教育」という考えを広めていただくことで、子どもたちに本当に必要な性教育とは何かを考える機運も高まると考えている。 私たちは「性教育」に特化したNPO法人である。性犯罪によって傷つき悲しむ子どもをなくし、性加害も性被害もない熊本市をつくるために活動しているが、これは法人内部の人間だけで叶うものではない。「一人でも多くの市民に同じ願いをもっていただくこと」、その使命を果たすために熊本市市民公益活動支援助成金を使わせていただけたことを大変ありがたく思う。